

幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

婦 人 子 供



第 九 卷 第 三 號

目 次

● 春の野遊	豊 子
● 幼稚園の前途	寺 田 勇 吉
● 幼稚園の課程に関する根本原則	アール パーネス
● 幼児の唱歌は如何に取扱ふ可きか	後 藤 ち と せ
● 玩具調査に関する研究報告	大 津 幼 稚 園
● 吃りに就いて	ドット・グノツプ
● ミシン裁縫に就いて	秦 利 舞 子
● 占相	な に が し
● 幼児笑話	(數 件)
● 短歌	眞 宮 起 雲
● お伽笑話「粟と炭と蠶豆」	と ち 子

フ レ ー ベ ル 會 行 發

會告

來る四月二十一日の總集會には例年の通り參考品展覽室相設け度候に付精々御出品下され度御願申上候

明治四十二年三月

フレール會

本會役員

會長	東京女子高等師範學校校長
主幹	東京女子高等師範學校教授
庶務幹事	東京女子高等師範學校保母
會計幹事	東京女子高等師範學校兼教諭
會計幹事	東京女子高等師範學校保母
庶務幹事	學習院助教
庶務幹事	東京日本橋坂本小學校保母
庶務幹事	東京女子高等師範學校保母
會計幹事	東京女子高等師範學校保母
庶務幹事	深川明治幼稚園保母
編輯主任	東京女子高等師範學校生徒監
	東京女子高等師範學校助教

高村秀夫	池田五	雨森ト	大小ト	和關	川田	武井	福田	下田
六	五	ト	ト	ト	綱	網	く	實
六	五	ト	ト	ト	綱	網	く	實

質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又ハ購讀手續(振換口座一七二六六)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- 一冊郵税共金拾一錢
- 六冊前金郵税共六拾錢
- 拾二冊同金壹圓貳拾錢
- 郵券代用一割増

遊戯的手工圖形 至急廣告 豫定變更ニ付

豫而豫約募集中に有之候遊戯的技圖形の儀其後着々版下圖書上り居り候處時日を経るに従ひ新奇に増加致し度圖形數十個を生じ到底豫定の代價にては收支相償ひ兼候事と相成り候へども此際代價を變更するも商賣染みて面白からず然りとて新奇の圖形を加へざるも惜し旁々種々熟議の上斷然豫定の計畫を變更し圖形を更に縮少して出來得る限り廉價に製圖致し候事に決定候間何卒左様御承知下され度代價は多分豫定の二分の一以内にて出來致す可く然も圖形は却つて豫定のものより美麗に出來致し候積りに御座候出版期段々延引致し候は右様の次第にて目下印刷所を督勵致し取急ぎ着手致させ居候に付本月下旬迄には出來致す可くと存じ候に付左様御諒承相成度候尙豫約代價既に御拂込の方へは新改正定價決定次第餘分の金子は便宜御指定次第御返送も致す可く候右廣告候也

明治四十二年三月

フ
レ
ー
ベ
ル
會

本會玩具研究部賛助員募集

兒童玩具の研究が日一日益識者の注意を牽きつゝあるは是れ寔に悦ぶ可き現象なりとす。本會に於ても夙に二三の熱心家に因りて玩具の良否其改良創作等に關して研究を怠らざりしと雖も實驗の範圍陝少にして研究上遺憾の節多かりき。然れども時勢の進運は本會をして黙止するに忍びざらしむるものあり。因て茲に更に本研究部を擴張し大に斯界の爲めに盡くす所あらんとす。世の玩具研究に同情せらるゝ諸君は奮つて吾人の微力を翼賛せられんことを切望に堪えず。左記賛助員入會規定を添へて敢えて江湖に檄す。

玩具研究部賛助員規定

一 賛助員諸君の兒童へは其性別年齢個性等に從ひ適當なる玩具を選定して毎月配布するものとする

但し其使用上の注意等は本會機關雜誌「婦人と子ども」誌上にて御通知致す可く候

一 配布玩具の實費は（營利に無之候へば利益を算入せず）金四拾錢とし別に雜誌代金拾錢合計一ヶ月金五拾錢を申受候但し現在會員は雜誌代不要

一 玩具代金は市内は集金人を差出し候へども市外は振替貯金口座一七二六六番へ前納御拂込み相成度候

一 入會希望の方は兒童の性別生年月並に御本人の住所氏名を明記して東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會宛に御申込下され度候

明治四十二年三月

フ
レ
ー
ベ
ル
會

會 員 募 集



會員募集の趣意
衛生の源は家庭にあり家庭を司るものは婦人なり、故に家庭の衛生は婦人の研究すべき所なり、本會は全國婦人の間に衛生の必要を自覺せしめ衛生をして實行的のものたらしめ以て家庭の健康を増進し國家に酬ゆる所あらむとす今回其規模を擴張し機關雜誌を改良し大に會員を募て遍ねく幸福を頒たむとす同好の諸姉は入會手續に因りて至急御申込あれ



明治二十年創立 (本會支會新潟外五ヶ所)

總裁 東伏見宮依仁親王妃周子殿下

會長 侯爵夫人鍋島榮子 副會長濱尾作子

幹事 鳩山春子 羽田三緒子 岡田德子 高木かう子
山本多穂子 松平芳子 三浦教子 (イロハ順)

評議員 松平伯爵夫人外二十餘名

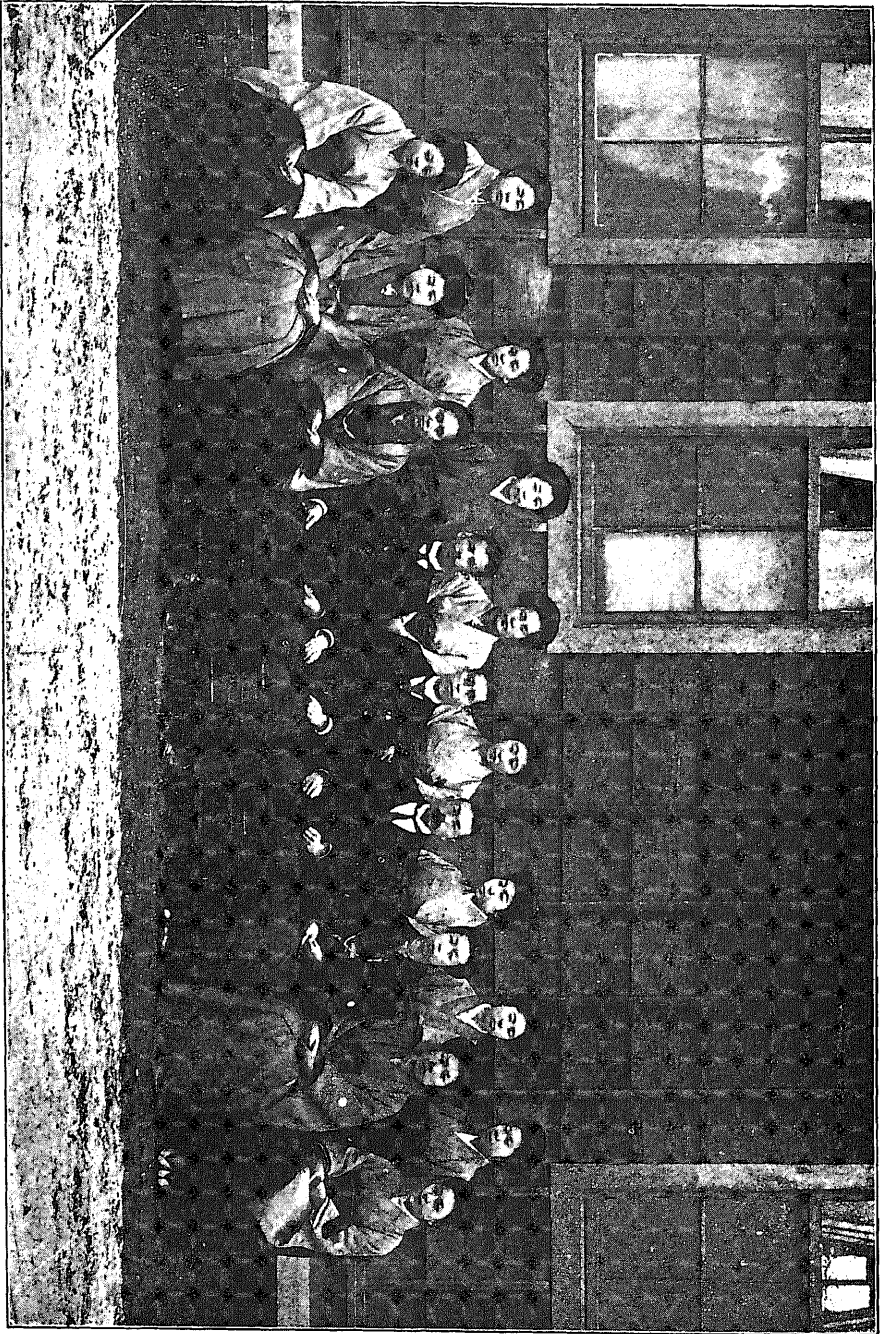
機關雜誌 婦人衛生雜誌(毎月二十一日一回發行) (無料を以て會員に頒つ) 講師及贊成員博士學士等百數十名

目錄講演 朝野名醫大家の所説 ● 寄書 ● 各支會講演 ● 衛生雜誌 ● 質疑應答 ● 看病法 ● 衛生時事 ● 救急處置 ● 内外實用料理法 ● 中外彙報 ● 會況 ● 會報等

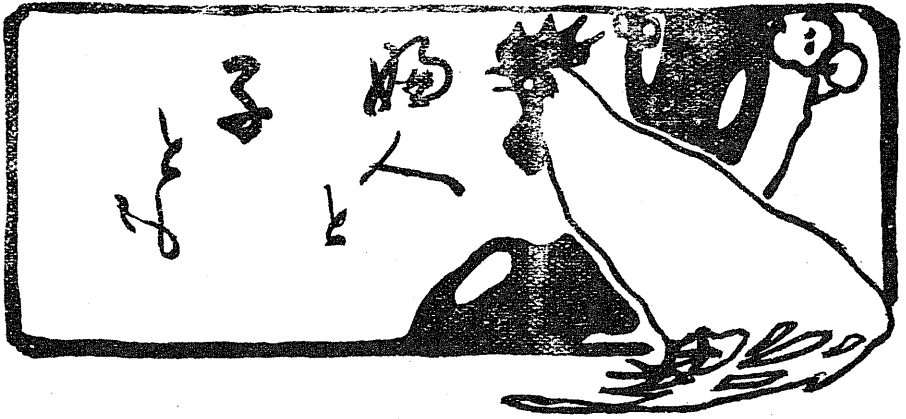
入會手續 入會の節は住所氏名及會員の別(通常、特別、終身)等を明記し三ヶ月以上の會費前納小爲替を以て東京市牛込郵便局振出にて申込るべし但會費は通常會員一ヶ月十五錢特別三十錢以上終身一時出金廿五圓とす男子にして本會の趣意を贊成するものは贊成員とす會費前に同じ

集會 本會は毎月集會を開き衛生上の講演を會員及其同伴人に聽講せしむ又毎年總會及懇親會を開き會員相互の親睦を圖る

東京市麹町區富士見町 二丁目廿二番地 私立 大日本婦人衛生會



東京女子高等師範學校保實科習生第二本樂生



第九卷第三號

春の野遊

豊子

谷の水のとけそめて

小川の流いと清く

岸に若菜も崩え初めぬ。

籠の梢青葉して

緑の綾はいと深く

世はいつしかに春立ぬ。

學の園に集ふ子よ

教の庭に行く稚子よ

風暖かに空晴れて

百鳥歌ふ野に山に

墓を尋ね蝶を追ひ

楽しく過せ今日の日を

春の野山は稚な子に

神の賜ひし樂園ぞ

花も蝶々も稚な子に

神の賜ひし友垣よ

たとしへもなき樂園に

可愛ゆき友と打つれて

心のかぎり遊べかし

心の限り唱へかし。

幼稚園の前途

寺田勇吉

(一) 近頃の新聞並に雑誌等に於て、我國幼稚園の改善方針なるものが、文部當局者及教育特志家の談なりとて掲げられ、既に教育時論にも前號の時事彙報欄に、殆んど同様の記事が有る。これらを読んで見ると、文部當局者及び教育特志家等の一部が、如何なる改善意見を抱かるゝかを、窺ひ見ることが出来るのである。而して我輩も亦、我國に幼稚園の必要なるを認め、自ら管理してをる九段坂下の精華學校内に幼稚園を設けて、多數の幼児を保育してをるのである。随つて平素外國の情况及我國の事情等に就いても多少調査してをるのであるが、我輩は教育時論前號の記事に感服せぬものである。従つて少しく所見を述べてみようと思ふ。

教育時論に於ける記事中の改善方針の主なるものは、

- 一、外國の幼稚園は下流社會の兒童を以て充され、上流社會の兒童を收容せざること、(家庭教育に依るが故に)
 - 二、我國の幼稚園は、殆んど悉く上中流の兒童のみなること
 - 三、我國にても主として下流社會の幼兒を收容することに改善すべき事
- 右に依り兒童は概ね附添人を伴ふを以て、學校風を廢し家庭風に化せられたること
- などが有つて、新聞雑誌等に現はれたものを綜合して見れば、當局者及教育特志家の意見なるものは、
- 上中流幼兒の保育をば家庭にて爲さしめ、幼稚園にては下流社會の兒童を收容する様に改善すべし
- といふにあるらしい、尤もこれは新聞雑誌記者の誤聞誤解も混入してゐるかも知れぬから、直ちに當局者及教育特志家の意見と見るとは出來ぬが、世間にはかくの如く傳へられてをるから、世の惑を解く爲に一言して見ようと思ふのである。』

(二) 新聞雜誌の該記事に依れば、歐洲には我國に於ける如き上中流社會の幼児を收容する幼稚園は無の様書いてあるが、それは全く誤りであつて、例へばドイツ國最近の調査に依れば、彼全國に於ては幼稚園は比較的少ないのであるが、ソレでも上中流社會の幼児を收容してをる幼稚園が、目下四百個ある(我國には三百個)。其他に貧民の兒童を收容する托兒場或は小兒保育所とも名付くべきものが澤山にあるのである、これは毎日職工となつて稼ぐ婦人が、毎朝出掛けに幼児を其所に連れ行きて托し置き夕刻歸り掛けに又其所に寄つて、幼児を伴うて歸宅するのであつて、此爲めに幼児は遊戯や唱歌を覺える、又母親が不在でも危険も無く、その他惡事を行ふたりすることもなく、心身が健全に發育するのである。次にクリツベといふ名稱で、二三歳位の幼児を世話する場所が有り、又キンデルプツルアンスタルトというて三歳から學齡までの幼児を世話する所もある、かくて此種下流社會の幼稚園は全國に三千もあつて、此所に保育を受けてをる子供は二千餘

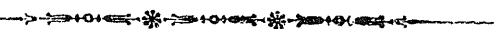
萬人の多きに達してをるのである、これを以て觀れば、新聞雜誌の記事は、彼の四百の上中流幼稚園の有ることを知らずして、單に此多數の幼兒保育所を指したものであらう。

(三) 而して我國に於ても、此如下流社會の幼兒を預る幼稚園を設立するの必要は勿論、甚だ緊急のことである、乍併我國目下の狀況に於ては其經費の出所に困るのであつて、ドイツや其他の國に於ては、從來多くは教會とか、婦人會とか、其の他の會合、或は特志家の寄附等の慈善金に依つて成り立つてをるからして、隨つて多くは私立事業である、然るに近來に至りては、市町村でも此種幼稚園をば、公費を以て設立するとか、或は補助金を與へるといふことが、漸々増加して來たものである。而して歐米諸國は比較的に富めるを以て、慈善金等の寄りも良し、且つ又個人主義であるからして、死後の遺産等をば、如此事業に寄附する人が少くないのである。然るに我國に於ては比較的國民が貧乏であるからして、慈善金などの寄り方も少く、又家族主義なる所からして、遺

産などの寄附も殆んど無いのである、併し稀には學校の爲に金品等を寄附する特志家も無いではないが、それらは主として高等の學校に對するもので、小學校とか幼稚園とかは世人から輕視せられ隨つて下流社會の幼児を保育する所などに、金を出す人は至つて少いのである、我輩は前にもいふ通り、此種の幼稚園の必要をば充分に認めるものであるが、其經費の出所が甚だ乏しい所からして其設立も亦甚だ困難の事であると思ふ。

(る) サテ右の如く托兒場とでもいふべき幼稚園の必要を認めると同時に、現に存在してをるやうな、上中流の幼児を收容する幼稚園も亦必要と認めるものであつて、これは無用である、上中流の兒童の保育をば家庭に一任すべしといふが如きは誠に今日の我國の家庭が一般的に如何なるものであるかを知らぬ者の意見であると思ふ。今日我國の上中流の家庭の母たる人は、これを歐米に於けるそれに比べて見ると、遺憾ながら其教育が甚だ劣つてを、歐米上中流の一般の如く、家庭に於て其幼児に、幼稚園的教育を施すの能力が乏しい、

但し歐米の母たる人は其子供に餘り注意せず、又子供に對して嚴酷に過ぐるといふ一般的缺點があつて、此點に於て我國の婦人は子供を取り扱ふところが親切周到なるの美點あることをば、我輩も亦充分に認める所である、乍併我國の上中流の婦人の多くは、未だ正式の充分な、教育を受けをらずして、資財豊に且つ閑暇なる餘り、或は愛に溺れて我儘に生長せしめ、後日如何ともすべからざる我慢放恣の子供に育て或は干渉の其度に過ぎ、無氣力なる子供に養成する等の缺點が有り、或は甚たしければ、如何はしい稼業を爲した婦人で、教育など、發言する資格すらも無いものもある(歐米にては、我國の如く、如何はしい稼業を營んだ婦人が社會の上中流に立つといふことは、決して無いのである)。次に歐米の家屋の構造は適當に出來てをるが、我國の普通の家屋では逆も幼稚園的のことが出來ぬ、即ち室内で活潑なる運動、遊戯をするとかといふことは出來ぬのである。次は又歐米では家庭教師が中々良好であつて、教師自身が教師として充分の實力を有し、相當の品位態度



を保つのみならず、第一の幼児の父母亦教師として相當の尊敬を拂ふのであるからして、彼國の上流社會に於ては、其家庭に於て家庭教師を聘して立派に幼稚園的教育を施し得るものである。然るに現今我國に於ける家庭教師なるものは學生の通學の餘暇とか、或は何とかといふものをば、子供の復習の手傳として雇うて置くので、父母を始め子供まで之を雇人扱ひを爲し、決して教師としての適當なる取扱を爲さない、之を以て家庭教師は幼稚園に於ける保姆の如き充分なる保育を爲すことが出来ぬのである、以上を概言すれば、我國の家庭に於ては、少なくとも現今一般の上中流の家庭に於ては、幼稚園的の仕事は出来ないものである、故に亦今日の如き、上中流の幼児を收容する幼稚園が必要である。

(五) 次に幼稚園が學校的ならずして家庭風に化する事は、如何なる種類の幼稚園でも必要であつて、我輩の意見では幼稚園が家庭風なればこそ幼児の收容に任じ得るのである。幼稚園の幼稚園たる本分は、これに依りて可能であるとするのである。

ある、幼稚園では學校の如く、智識を與へるといふ必要はない、幼稚園では良習慣を興へ、共同心を發達せしめ、體育を盛にするといふことに重きを置いてをやる、これには學校的なる必要が無くして、是非共家庭風でなくてはならぬ、而して我輩の管理してをる精華學校の幼稚園は、此の主旨に據つて保育してをる、加之東京女子高等師範學校の附屬幼稚園は我國に於ける幼稚園の模範として經營せられてをるものであるが、亦同様の主旨であるやうに思ふ、而して或所には、實に學校風の幼稚園が有るかも知れぬが、若しさういふものが有るとすればそれをこそ一日も早く改善すべしと信ずるのである。



幼稚園の課程に關する 根本原則

アール、バーネス

米國式の幼稚園が主として統合主義の本に行はれて居ると云ふことは嘗て本誌第七卷第十一號昨年十一月に於て「幼稚園問題」の中に述べて置いた通りであるが、今又近着のキンデルガーテンレビュエを見るとアール、バーネスと云ふ人が多少趣を異にして然も米國風の幼兒教育論を寄せて居る、所論が充分に科學的で、ないと云ふ所が米國式の米國式たる所ではあるが讀みもて行くと申々面白いところがある、恐らく米國に於ける方今の幼兒教育論の一部を代表して居るものと見てもよからうかと思ふので今左に之を譯載し序に多少の評論を加へて見やうと思ふ。

(湘陽生)

過去に於ける幼稚園教育の課程は主として神學と哲學とに準據して定められたものであるけれども方今一般に承認さるゝ所の原則は被教育者其者に適切ならしむると云ふことである、此直接に子供其れ自身に關係して理論と方法を組織し子供の自然性を認識して其自然の要求に應ぜんとすることは實に我幼稚園教育の誇りとするところであつて

其成功は此基礎に關する意識と基督教的獻身の結果であるし其失敗は人性自然に有する一般の誤謬より生ずるものである。過ぐる二十年間に於て兒童に關する科學的研究は頗る盛んなものであつた。併し大体に於て研究の結果はフレイベルの教ふるるところと大差がない。且フレイベルの教へたと同様に兒童の教育的萌芽は早く其處此處に現はるゝことと教へて居る。因て吾人は今茲に最近の基礎的研究の見地に因りて幼稚園課程の原則を論述して見様と思ふのである。

今若し一人の科學者があつて六才以下の兒童觀察に従事したとしたならば先づ最初に彼の注意を牽くものは確に幼兒の驚嘆す可き「活動性」であらう。彼等は或はあへぎ、或はのたくり回り或は笑ひ、或は拍手し、或は匍ひ或は歩み或は喋べり或は泣き叫ぶ。若しドレウサー教授の如き研究家をして之を見させたならば單に彼等の半時間の活動を數へ立てる丈でも長い「記述を作つたに違ひ無い」と思れる程彼等は活動するものである。併し此の如く亂雜極まれる幼兒の行爲に對する科學者の觀

察は多くは無益のもので其結果は何等の得る所もない。是が幾多の兒童研究書が専門家以外には無益無趣味の讀み物と云はれる所以である。

元來健全に發達し來れる幼兒の心と云ふものは時に遇然の刺激や誘惑で思ひの外の活らさを現はすことがあるとは云ふものゝ先づ一般に正しき一道の軌繩に耐うて活動して居るものである。そして其活動は暫時にして疲勞し來るものである。兒童の作業が永續することの出來ないのは之が爲めで幼稚園事業の教育的効果如何に關する論争の何時迄も盡さないのも是が爲めである。勿論幼稚園の最後の日に於ける幼兒と小學校入學當時の幼童とに於ては兩者の間に些少の差違をも存す可きではないけれども併し大體に於て幼稚園の幼兒と小學校の兒童とに於ては大なる差異あることを認めなければならぬ。そして夫等の差異が主として彼等の活動と其注意力とに關するものであることを認めねばならぬ。

次に科學的觀察者をして驚嘆せしむることは幼兒の社交上に關する慾望と其無造作なることである

非常に幼稚な乳兒でも彼等の傍に人の居ることを喜ぶが、甚だしきは初生の當時に於て既に暖かき柔かき癡床より母親の膝に眠ることを喜ぶものもある。斯くして幼兒の最初の一年間は動物若しくは其仔獸と同様なものであるが滿一年を經たる幼兒にして若し單獨生活を喜ぶものがあるとしたならば其は最も奇怪なる動物たらざるを得ざるものである。教育者が若し早く此社會性を認識し之に適當の施設を興へたならば幼兒の全生活は著しく發達するに違ひない。そして彼等が誰に管理されねばならぬか誰に従はねばならぬかと云ふことを遠に學ぶ様になる。第三年に入りたる幼兒は成人が書物を読み得る様に人の顔色を讀むことが出来る。そして六才に達する迄に多少部分的であるが其社會的經驗の大部に自身を同化することが出来る。此社會的感覚は幼兒をして著しく摸倣的に進ましむるものである。吾々が考へる所のものをば彼等は悉く注意して居る。吾々が嘆稱する所のものをば彼等は單に感ずるのみならず、之を實行せんとするものである。吾人は嘆美する所、愛す

る所、成就する所に於て生活し得るものである。此の如き生活の結果は習慣を固定し理想を與へるので此理想は遂に幼児の模倣的傾向を阻止するのであるが幼児は眞遊戯上に現る、一切の暗示に對しては頗る貪食者であるのみならず幼児の身心は柔にして不成型のものであり其理想は強き勢力を以て走るが故に幼児は常に想像的模倣的遊戯に於て己を實現せんとするものである。予が此頁を書ける折しも三人の幼児は庭に於て車を以て遊んで居つた。彼等は今丁度海上旅行をして居る。車は差し當り舟で先頭の子供はカピテンである。後から押しで行く子供は自ら稱して水夫と名のつて居り最幼の一人は彼が幼稚なるが爲めに仲間はずれにされんとしたのを不平に思つて立派な一人前の水夫たらんことを強硬に要求しつゝあつた。スルト他の一人は説明して云ふには、お前は水夫ではないよ、お客さんだよ、サア此處に切符があるよ」と云つた。予か是等の數語を書き取つて居る間に船の仕度はすつかり出來上つて車の船は一人の船長と一人の水夫とに因つて一人のお客さんを

載せて愉快げに庭の芝生の海に向つて出發して行つた、讀者は此等の遊戯に依つて幼児の活動性と云ふものが何んなものか其社會的要求はどんなものかと云ふこと及び其理想實現に關する彼等の注意と準備との何んなものであるかと云ふことを略ぼ了解せられたであらうと思ふ。而して是等未開の性質は以て吾人の働かざる可き地盤である。幼児教育の課程と云ふものは是等の個性に適合する様にされなければならぬものである。そして右課程は當然吾人が彼等幼児に對して要求する目的に向つて先導し誘導するものでなければならぬ。最も幼児の生活と云ふものは悉く一様のものではない。幼児を保護する人の人生觀や其社會的的政治的意見の差異に因つて大に異なるものである。故に幼稚園は便宜上非教育者の從屬する生活の進行を助成するに都合よき進路を取らねばならぬ。近所が貴族的生活をなすつゝある人々の集れる所に於ける幼稚園ならば彼等の兩親が常に受けつゝある貴族的生活に適する様に注意されなければならぬ。之に反して細民窟に於ける幼児ならば幼稚園は貧弱を

救助し改良する一機關として用ゐられなければならぬ。併し吾人が今茲に述べんとする所のものは一般世俗的平民的のものに就いていゝある。扱て以上述べ來つた様な性質を有する動物を教育して行かうと云ふには彼等の活動性に應じて行かなければならぬと云ふことは明かな事である。元來子供が教育されないと云ふことは誠に悲しむべきことであるが併し之を教育するとしても幼児の烈しき活動性を抑へて働かざらしめんとすることはより一層の悲しむべきことである。故に吾人は此幼児の活動性に應じて絶え間なき運動と遊戯とを供給し得る科程を採用しなければならぬ。是は組織せられたる屋内遊戯手工團藝庭園遊戯及遠足に於て其目的を達することが出来る。シカゴに於ける休養園の子供部に於ては幼児の活動性を増進することに大に努められて居つて廣き砂場やブランコやシーソーなどのある廣き草地等が際限なき活動の發達を助けて居る。併しながら此の如き幼児の活動は寧ろ教育の見地より見るときは厭ふべきものである。遊戯は活潑に活動性を維持する

けれども仕事は此斷片明なる活動を意味ある關係に組織せんとするものである。休養園は純粹に無用の勢力の放散所である。併ながら幼稚園の存在を正當とする限りは幼児の生活をして形あるものとしなければならぬ。茲に於て吾人は教育上の一一般の矛盾に遭遇せざるを得ぬ。即ち吾人は一方に故障なき始めを維持し其活動性を損傷せざる用意を必要とすると共に他方には尙ほ生活上に深き價値を有し得る様其欲望を整頓し其活動性を誘導するの必要を有するものである。慾望を整頓すること、活動性を導くことの二つものは恰も船に對する風と舵との如きものである。風なくしては船は動くに由なく舵なくば船は目ざすところに行き難きものである。斯くして幼児の活動性を誘導せんとすることが吾人幼稚園教育者の任務であるとしたならば此目的を達する方法としては主として習慣と稱せらるゝ所のものを組織することに因りて行はれなければならぬ。(續く)

幼兒の唱歌は如何に取扱ふ可きか

後藤ちとせ

子供と唱歌

目があれば視覚に伴ふ美感を喜び、味覚には美味嗅覚には芳香を慕ふ等、人は諸感官に伴ふ美を追求するもので御座いますから、聴覚ある上は音楽を喜ぶのは自然で、之を満足せしめ、且つ是を發達せしむるのは至當の事と存じます。殊に澤山の美術の中で最も早く幼兒の美感を動かすものは音楽なさうで御座いますが、成程子供は唱歌すき音楽好きなものであり、調子優しい子守歌に泣きたる稚兒も眠りに就き、美しい歌や音楽にも騒ぎ立てる幼兒の心も打ち沈める力があります。唱歌も知らず樂器をも耳にせぬ奥山住ひの樵夫が子等も谷の響や鳥の聲扱ては秋の虫のあはれさ等自然界の音楽に心動かさぬ者なかるべく、不風流なる陋巷の兒さへ石うち合はして拍子整へる其音を嬉しがるなど皆是れ幼兒等が聴覚より入る美感を

喜ぶの徴し進んでは音楽を好く證據というて宜しからうと思はれます。且つ幼兒社會に流行する言葉の中には自ら節の定まつた唱歌じみたもの、あるのは少しく幼兒等の集合に注意すれば直ぐ見出し得る事で、彼の鬼事の際に於ける一紙なしぢやんとか「お山の大将おれひとりわとから来る者云々」とか云ふのは皆定まつた節があり、又童謡などいふもの、者から有つた事を思ひますと、如何に幼兒等が唱歌をすくか、解りませう。幼兒生活から遊嬉を除いてしまつたなら幼兒の活動は殆んど已むと云うて宜しいと同時に唱歌的な部分を除去すれば其の趣味のある詩的な所は皆とりに去られて至極難風景なものとなり果てませう。斯く唱歌は幼兒等が殆ど先天的に好くもので而も教育上種々有益な効果のあるもので御座いますから幼稚園保育事項の一として缺くべからざるものとなつて居るもの、偶然の事では御座いませぬ。

唱歌の價値

小學校令施行規則の中幼稚園に關した規定中に唱歌は平易ナル歌曲ヲ唱ハシメ聽器發聲器及呼

吸器ヲ練習シテ其ノ發音ヲ助ケ心情ヲ快活純美ナラシメ兼テ徳性ノ涵養ニ資センコトヲ要ス

とありませんが、是利ち幼稚園唱歌の要旨及び目的を合むものと云ふべきで此等の目的を達し得るに叶うた上は智徳體の三育に何んな唱歌の價値を認むべきか直ちに豫想し得らるゝ事で御座います、即ち音調の高低、音色の美惡拍子の觀念、曲想の如何等の了解は幼兒聽器の發達を促し、不全なる彼等の發音は談話の際に於けるよりも、より多く唱歌の場合に矯正せられ、胸廓はひろめられ、姿勢は正され、呼吸器全体の發達をよくし、歌詞の内容音曲の美により自ら幼兒の心情を和らげ、月を見ては月の歌を、雁を聞いては雁の歌を唱ひ出づらむ趣味ある心を養ふは實に是れ唱歌の效果の主なるもので御座います。更に尙散漫せる幼兒等の注意をまじめ喧嘩を打撃める折等には禁止説諭にも増して有効なもので、室内保育の際さわぎ出して困る折にも唱歌ひき出し幼兒等の好く歌を唱はせるが何より手輕な且手際よき鎮靜良

法で御座います。

唱歌の選び方

其國の音樂によつて其國の風俗習慣盛衰興亡がわかるると云ふ事は支那の學者が古くから申した事と思ひますが、佛國々歌マルセイユが普佛戰爭の際創めて唱へ出さるゝや意氣消沈せる該國々民を勵起せしめ、老若男女を驅つて戰に赴かしめたといふ話があるかと思へば鄭聲曲など云ふ熟字さへあるのでも如何に音樂が人心に影響を及ぼすかまして可弱り幼兒の腦裡にはと思ひますと唱歌の撰擇も亦實に忽荷には出來ません、然らば其選擇には如何なる注意を要すべきか、どんな唱歌が適切か歌詞歌曲並びに歌の内容即ち唱歌の題等につき注意すべき點を左に掲ぐる事にしませう。

一、歌詞

(イ) 歌詞は幼兒等の了解力に適合せるものたる

べき事

論語讀みの論語知らずとやらむ讀み得ても意味が了解らねば興味も起らず、ためにもならぬと同じ様に歌の意味が六ヶ敷くては

幼兒は唯記憶するのに苦しむ許りで唱歌の教育的價値は半以上減せらるゝわけでありますから歌詞は幼兒の了解力に相當した言文一致体若しくは韻文體のものが最も宜しう御座います。

而し茲にお断りしておく事は彼の幼兒、兒童等間に時々もてはやさるゝ流行唱歌例へば鐵道唱歌とか廣瀬中佐のうたとか將又電車唱歌とかいふものが歌詞が中々六ヶ敷の記憶強き幼兒等は一番より廿番位まで暗記して得意に唱ふ者がある事です是は其歌曲が唱ひ易ひのと周圍の人々が幾回となく唱ふのを聞きかへす事により何時の間にか覺えてむので御座います。で此種のものはその性質の善良なるもの限り家庭に於て覚えて来た丈さらつてやる様にするが宜く流行るからと云うて無理に教へ込むのはいけません

(ロ) 歌詞全體の内容幼兒の思想趣向に適合し優美にして野鄙ならず音調なだらかにして唱ひ

易さのたるべきこと。

(ハ) 歌詞を作るに當り對句に注意すべき事
幼稚園唱歌の中好んで幼兒等の歌ふもの及び童謡などに就て考へますと是等の歌詞にも同音同語の繰り返されたるもの及び對句の多く用ゐられあるのを見出しませう例は

椿

椿や椿 椿の花開いた 奇麗に開いた

一重や二重 赤や白や 白や赤や

奇麗に開いた 盛りを開いた

蓮の花

開いた 開いた

何の花開いた 蓮の花開いた

開いたと思ふたら 何時の間にか凋んだ

蝶

蝶々 蝶々 菜の葉に止まれ 菜の葉にあ

いたら 櫻に止まれ 櫻の花のさかゆる

御代に

遊べよ止まれ 止まれよ遊べ

童謡

蛙がなから歸らう

蛙がなから歸らう

の如き其例で御座います蓋し此種の歌詞は口調がよくて歌ひ易く且うつくしう聞ゆるからで御座いませうが歌詞撰擇上考ふべき一事項と思はれます

歌

(三) 歌詞大體は其儘になし置き或一部分のみ幼兒の隨意に變更し得るものは大に興味を感ぜしむる事例へば左の如きものです

雪

雪やこんこん 霰やこんこん

もつと降れ降れ 解けずに積れ

積つた雪で達摩や燈籠

こしらひませう おねえさま

此歌詞の中で「達摩や燈籠」の句は「兎や手鞠とも」何なりとも幼兒の好む物の名を入れ代ふる事を得べく結句なる「おねえさま」は「おとう様か母様か兄様扱ては太郎お花

二、唱歌の題

等幼兒等の望みの人の名に變更する事が出来ませう此種の唱歌は復習の際種々の言葉を入れ代ふる事により非常に興がりつゝ何の苦もなく復習の目的を達し得ることが出来るてかもしろう御座います。

次に何の唱歌が宜しいかと申すと動植物自然界の現象、人事、人工物等幼兒思想の範圍内にあるもので、保育上に有益無害なものならば何の歌でも差支はない筈ですが雑な物を澤山に歌はせるよりは精選したものゝに熟せしむるが有効な様で御座います歌詞の内容は幼兒等の思考想像理想等凡て幼兒の思想界に基づきて作り出し選びますべく例令大人に興深くとも幼兒の喜ばぬものは不適切で御座います、他の保育事項との連絡及び季節等とも考へて其折々に適つたものを歌はせる様注意すべきは小學校と違ひがありません

三、歌曲につきて

イ) 幼兒の音域

幼児の音域は普通DよりDまでと見做されて居る様で御座います。が實際發聲をさせて見ますとDより高い音はなか／＼出難う御座います。がDより下は三四音出せる様で御座います。で、幼児にうたはす唱歌は此音域内で歌はるゝものを選ばなければなりません。但し幼児はすんずん發達する者で御座いますから保育者は常に注意して彼等の音域を廣めて行く事につとめなければなりません。

(四) 調子

右の音域に基づき調子の高低をも斟酌し歌曲歌詞共に宜しきに調子の不適切なるは移調して歌はすべきで御座います。

(ハ) 拍子

拍子は四分の四、四分の二などが最も宜しく稀に八分の六等用ゐるも差支ありません。

(ニ) 半音以下の細かい音程八分音符より短い音符の入つたものは六ヶ敷すぎないけません。

(ホ) 歌詞に於て同語同句の繰り返されたのが好かるゝと同時に歌曲に於ても同じ節の繰り返

へされたのが喜ばれます。
 (ハ) 歌曲中例へば11-の如き27-の如く音の移り變りの急なものを即ちむづかしき音程のあるものは幼児には不適切です。但し同音程でも51-と唱ひ下ぐるが15-と唱ひ上ぐるより遙かに容易であることを記憶せねばなりません。

(ト) 曲想に注意すべきこと

活潑なものと優美なものと、愛らしいものと愉快なもの、静かなものと賑はしきものと、皆とり／＼に面白う御座います。が、あまり悲憂なものや沈みきりたるものなどは採らぬ方がよろしい、中で一番好かれるのは行進に合ふものゝ様で御座います。



玩具調査に關する研究報告

大津幼稚園

玩具に就て

玩具の小兒保育上に必要なるは今更云ふ迄もなし、されども其何の爲めに必要なるかを仔細に留意するもの、少きは寔に歎す可きことなりとす。本園こゝに見るあり夙に其代表的玩具を蒐集して一般父兄諸君の參考に資せんと欲するもの久かりき、然れ共未だ之が調査研究に着手するの機を得ざりしも、今秋園兒の春秋以來の推移狀態を調査するにさり頗る感ずる所あり、之が研究は一日も忽せにすべからざるを覺り、試に其時代に適應し心理的、生理的、倫理的、要素を根據として左表の如く其代表的玩具を選択したり。勿論此は匆卒の調査物にて研究上の原議に屬す可きものなるを以て未だ満足すべき研究的調査を了せるものにあらざるが故に極めて粗漫杜選なるものたれども亦聊か意を須むたるの節なきにあらず。讀者幸に是正の勞を惜むなからんことを望む、本園亦今後漸次微力を此研究に致して其完成を圖らんことを期せんとす

于時

大津幼稚園にて

明治四十一年十一月十三日

調査主任者 識

<p>發育上著眼スベキ諸點</p> <p>二週ノ後ヨリ凝視作用アリ 五週ニ至レバ兩眼連合シテ左右轉視 スルコトヲ得。</p>	<p>保育上注意スベキ諸點</p> <p>横臥セシムル場所ハ餘リ變セザルヲ 可トス。 光線ヲ背後ヨリ採ルベキ様ニスルヲ</p>	<p>代表的玩具ノ一二</p> <p>球、赤色。 静カナル色ヲ撰ビ、兒ノ向ヘル少 シ上ノ所ニツル。</p>
--	---	---

代時臥讀一第期兒嬰

七八週ニ至レバ本能的ニ我手ヲ見ル
十乃十ニ週ニ於テ音ノ爲ニ快感ヲ
表ス四週以上ヨリ觸覺ノ上ニ於テ現
ハルニ記憶アリ
六七週ヨリ交動の想像ヲ働カス。
十一週ヨリ衝動的運動ヲ盛トナ
ル。本期ニ至リ有意の運動ヲ試ミル
ノ作用僅クニ起リ始ム。
本週ニ至リテ光ニ近キ體ヲ見ルモ
眼ハ上下ニ轉スルヲ得(約一メートル
左右之ニ次グ。
甚クシキ光線ハ兒體ニ害アリ。
頭蓋骨未ダ動ク且其含經ニ充分ナル
ヲ以テ横臥ノ位就キニツイテ注意ヲ
要ス。
身體ノ各部ニ自由ヲ取ラシメ、近視等
十一週ノ外物ノ爲メ眇、近視等
ニ陥ラシムルコトアリ。
二、三ヶ月ニ於テ首骨ヲ完全ニ保ッ
コトヲ得。
驚キ受寒等ノ爲叱逆ヲ出スコトアリ

可トス。
追視作用ヲ左右ニ練習セシムルト。
直接ニ烈シク外氣ニ觸レシメザル様
ニスベキコト。
體温ニ適セシムル爲メニ室ノ溫度ヲ
加減スルコト。
徐々ニ物ノ音ナドニ近ツクルコト。
接觸セシムベキ物體ハ單純平易ナル
モノタルベキコト。

上下ニ動ク様ニ彈力紐ヲ用フ。
右左ニ動かシ得ル様ニスルコト。
風車。大形ノモノガヨイ、時ニ置場所ヲ
換ユルガヨイ。
風船。六二ツ、空氣ニツル靜ニ動ク様
ニ追視セシメ得ル様ニスルコト。
風鈴。二ツルス、靜ニ鳴ルモノ。
ガラガラ。
枕頭ニツル彩色ニテ脆弱ナラヌモノ
靜カナル彩色ニテ脆弱ナラヌモノ
一、眼、其次テ筋肉練習ヲ目
的トス。
注意(一)妖麗の色彩ハ避クルヲ可
トス。
三、顔料ニ注意ヲ要ス。

二第期兒嬰

發育上着眼スベキ諸點
觸覺ト運動トノ力ヲ得テ始メテ物體
ヲ知ル。
女兒ハ男兒ニ比シ物ニ對スル理解力
發達ス。
總テ對スル認識作用ヲ稍長ズ。
物テ意識作用ハ經驗ナキコトハ應用
スル動ナシ。
連合作用ヲ筋肉覺ノ發展ヲ見ル。
有意的筋肉覺ニ於テ動スガ。
音ノ方向及調子ヲ区分クル迄ニ至ル
受動的想像稍發展ス。
目的ヲ定メテ意識ヲ運ラスコトアリ。

保育上注意スベキ諸點
手ニスルモ危険ナラザル構造ノモノ
ヲ撰ブコト。
色彩及構造等余リ複雑ナラザルモノ
ヲ可トス。
色彩顔料ニ最モ注意ヲ要スル時期ト
ス。
一物ノ彩色數種ニ涉リ復雜ナルモノ
ハ採ラズ。
口ニ入ルモノモ害ナキモノタルベキコ
ト。
消毒ノ爲メニ破損セザルモノタルベ
キコト。

代表的玩具ノ一二
ゴム人形。
大ナルモノヲ可トスレモ兒手ニ握
リ能ハザルガ如キハ不可ナリ。
豆太鼓。
豆ノ代ハリニゴムヲ用フ。
犬。木綿製輕キモノヲ可トス。
小鈴。用法種々アルベシ。
ネアリコ。
木製ヲ可トス。母ノ乳房大チ可ト

代時旬旬

赤黄ノ如キ烈シキ刺撃ヲ與フル色體
ノタメ非常ノ快感ヲ呈シ著シク身體
發育ニ影響ヲ來シテ代謝的運動トニ
齒牙發生ヲ促スト代謝的運動トニ
齒牙發生ヲ促スト代謝的運動トニ
此時期ノ始メヨリ何物モヨラズ口ニ
持チ行ク筋肉運動ヲ見ル
感情ノ如何ニ依リ體温ニ變化ヲ來ス
ゴトイフニシルキ時代
彈力性運動ヲ筋肉ニ起ス
握力性運動ヲ筋肉ニ起ス
少キモ出リ易シ又脱白シ易シ
注意 此時期ヨリシテ男女兒ノ心
的發育ノ状態漸次其差ヲ増ス

發育上着眼スベキ諸點

思想作用不完全ナガラ働キハジム。
知的發育稍盛ントナル隨テ求知心
發動ス。類似點ヲ總括シテ判斷ヲ誤
小部分ノ類似點ヲ總括シテ判斷ヲ誤
リ易シ。怒リニ於テ特ニ激情性ヲ起ス。烈シ
ク短ク。物體ニ對スル慾望漸ク盛ン
ナリ。共同心稍發達スルモ廣ク働カスヲ得
ズ。意識運動漸次盛ントナル。
著シク音ノ快感ヲ知ル。
同情心ガ動物ニ對シ稍起ル。
此期ニ於テ諸關節稍強クナル。
吹ク力ヲ出シ得。
中等ニ筋肉ノ練習ヲナサシムベシ動
モスル一部分ノ發達ニ偏シテ全體
ヲ衰ヘシムルコトアリ。
聽器ノ發育盛ニナリテ音ノ嗜好ヲ知
ル。一物ヲ持ツニモ兩手ヲ同一ニ働カス

自己ガ若干ノ力ヲ加ヘテ音ヲ發セシ
ムルガ如キ玩具ヲ撰ブベキコト。

保育上注意スベキ諸點

玩具ハ複雜ナラザルモ幾分力自己ノ
關係ヲ働カスノ必要ナルモノヲ選ブ
ベキコト。
烈シキ吹力ヲ要セザルモノ次テ稍強
キヲ要スルモノヲ結果ガ直接ニ知リ
自己ガ加ヘシ力ノ結果ガ直接ニ知リ
得ラルモノヲ選ブベシ。
危險ナル場所ニ遊バシムルコト。
時々鳴禽ノ美音ヲ聞カシムルハ可ナ
ルベシ。
餘リ多クノ玩具ヲ一時ニ與フルハ可
ナラズ。
餘リニ言語練習ニ骨折リスルノ必要
ヲ認メズ。

刀。餘リ長キバ却ツテ危險ナリゴム製
ヲ可トス。
啼犬。木綿製留入ノモノ。
注意 一、此時代ヨリ漸次、自己ノ力ヲ
玩具ニ加ヘテ音又ハ運動ヲ起ス
モノヲ撰ブテ可トス。
二、耳、目、筋肉覺及其聯合作用ノ
練習ニ供スベキモノヲ撰ブベシ
三、齒牙發生期ニハネアリコト與
フベシ。

代表的玩具ノ一二

馬。布製車ノ付キアルモノ。紐ヲツ
ケル。
猿。木綿製。
ラツパ。木製。
動物。殊ニ禽類ノ實物又ハ標本類。
面筒。
太鼓。
旗。米搗キ車。

後以テ時覺動發立起語言生發牙齒第三期兒嬰

<p>時々甚ダシキ強弱ヲ起スコトアリ、 是レ歯牙發生ノ爲メ意識作用ノ爲メ、 過食ノ爲メ等ノコトヨリシテ起ル、 注意ヲ要ス。此時代ニ於テハ特ニ母親ノ 温情擁育ヲ絶體ニ要求セリ</p>
<p>○ 嬰兒期用玩具取扱ニ關スル一般の注意</p>

- 一、顔料色彩ニ對スル特別ノ注意ヲ要ス。
 - 二、玩具ノ消毒ハ其物ニ適當シテ熱氣消毒、日光消毒等ヲ怠ルテ許サズ。
 - 三、鋸力細工ノ玩具、陶磁器硝子製等ハ概シテ危險ニシテ且脆弱ナリ避クルヲ可トス。
 - 四、玩具ノ種類ハ多キヲ望マス。
- 幼兒期用玩具取扱ニ關スル一般の注意
- 一、季節ニヨリテ與フル玩具ヲ選定スルノ要アリ。
 - 二、同種類ノ玩具ニテモ坐席用ノモノト戶外用ノモノト男性的ノモノト女性的ノモノ等ノ別アラン。
 - 三、うつむきノ遊具ハ概シテ此時代ノ者ニハ適セザルモノ多シ。
 - 四、衣服帶袴等ノ緊束ヲ否認ス。
 - 五、規則的習慣ヲ養成スルニ必要ナル基礎的時代ヨリ玩具ノ取扱ハセ様等ハ特ニ注意ヲ要ス。
 - 六、玩具使用ノ注意
 - 七、玩具ハ其兒ニ適應シテ之ヲ選アベシトノ意味ヲ單ニ其嗜好ニ任カスベシトナスモノアレハ是レ寧ロ危險ナリトス、宜シク其兒ノ性情習癖等ノ上ヨリ見、其反面的玩具ヲ用キテ誘導スベキ場合多カルベシ、換言スレバ玩具ハ滋養食トシテ用キル場合ヨリモ醫藥的用料トシテ用キル場合多カルベシ云々。
- 付言 1、菓子 樽ビ方及食后ノ跡始末(歯牙愛護ノ習慣ヲ得シムル爲メ) 2、錢ヲ與フルハ特ニ其場合ヲ考フルノ必要アルベク、又其始末方ニ就テモ大ニ考慮ヲ要スベキモノアラン。

<p>幼 兒 第 一 期</p>	<p>有意のニ音楽ヲ好ム。 戯曲の本能最盛トナル。 恐怖心稍起ル。 同種ノ念ヲ起サシムルノ誤リ多キ時 具體的觀念作用アリ。 感情的ニ受ケシ記憶ハ比較的持續ス 自動的ノ想像盛ントナル。 自誇のニ怒リヲ表ハスノ時代ナリ。 關節ハ漸ク發育セルモ尙脱白シ易シ</p>	<p>發育上着眼スベキ諸點</p>
<p>大人ノ所持スルモノヲ好ム之ガ模型 的ノモノヲ授ケルハ可ナラン。 發音ヲ害スルガ如キ樂器ノ類ヲ與ヘ ザルヲ可トス。 恐レテ抱クモノハ近ツケス理解スル ヲ待ツコト。 複雑又ハ實際ニ遠キ繪畫ハ與ヘザル ヲ可トス。 簡便明瞭ナル繪畫ヲ與フルノ要アリ 口口ニ干渉多カラザルヲ望ム。</p>	<p>保育上注意スベキ諸點</p>	<p>代表的玩具ノ二三</p> <p>サーベル。危險ナラザルモノ。 動物ノ繪畫。 稍大ナルモノニシテ彩色ノ全キモ 春駒。但竹馬ハ排斥ス。 猿スベリ。 不倒翁。大ナルモノ。 風鈴獨樂。手ニテ心易ク廻ハルモノ 大將人形。各種。</p>

幼 兒 期 四 年 以 上

發育上着眼スベキ諸點

自動的想像盛ニシテ殊ニ女兒ハ著シキ發展ヲ見ル。思想用ニ伴ヒ判斷力確カニナル。忍耐力稍起ル。物体ヨリ性質ニ及ンテ聯合作用發展ス。物体ノ醜美ハ之ヲ認識スル作用アレ共美ト善トチ同一視スルコト多シ。推理作用ハ以前ヨリ發作スレモ此期ニ於テ著シク發展ス。氣儀アシトテ衣服ヲ整束シ過ギテ爲メニ呼吸循環等ヲ妨グルコト往々アリ。諸機宜ニ時々體息ヲ與フルノ必要アル時代。幾分カ勞力的ノ活動ヲナサシメ體力ヲ増サシムルノ要アル時代。皮膚ノ弱キタメニ發疹ヲ起シ又風邪此時代ニ於テハ未ダ背柱ノ軟キタメニ屈曲シ易シ。門齒ニ續キ諸齒ヲ痛ムルコト甚ダシキ時代。

保育上注意スベキ諸點

運動ニ害ナキ襟帶束ニ注意スベキコト。和服ニテモ紐ヲ用ケルコト可ナラン。自分ノコトハ自己ニセシムルノ習慣ヲ漸次ニ養フベシ。勝ヘ難キ位ノモノヲ持タシメテ活力ヲ強大ナラシムルコト必要ナリ。一物ヲナシ遂グルノ習慣ヲ養成スルノ必要アル時代。(簡單ナルモノヨリ入ルハ勿論ナリ。時々靜止的ニ極メテ精神ノ安靜ヲ圖ルハシ。戶外ハ力ニテ之ヲ利用シ遊バシムベシ。殊ニ自然ニ遊接セシムルハ必要ナリ。

代表的玩具ノ二三

積木。
一箱ナスモノ單ナル型チナス。一歩ヲ進ンデハ此時代ノ兒童ガ滿アルモノヲ可トス。
風船。
フットボール。
自分ノ吹力ニテ出來得ルモノ。
粘土。
付屬品一式。
不倒翁。
毛人形。
吹手玉。
吹筒。
上ニ向ツテ吹ク片ハ中ヨリ風船等ノ出ヅルモノ。
電話遊。
小兒用鞆、勳等ノ類(植物栽培)

三 年 以 上

整帶機完全トナリ發育ヲ練習スベキ時代。模似的作用ノ活力盛トナルモ一部分ニ因リ平等ニ諸機宜ノ發達不平均チ來スコトアリ。此時代ニ於テハ身體ノ過勞ハ消化器ノ作用ヲ十分ナラシメザル恐レアリ。些ノ炭酸瓦斯ノ爲メニ氣管ヲ損スルコトアリ。言語ノ發達模似的ニ上達スルノ時代。

模擬想像等ノ心力漸次發暢スルニ伴ヒ。家母ノ縫裁等ヲ見習ヒ坐席作業ニ耽リテ知ラズノ戶外遊戯ヲ認結スルモ家母ハ却ツテ之ヲ喜ブ風アリ。戒ムベキコトハ。日光浴及外氣呼吸ハ此時代ヨリシテ漸次其切ナルヲ認ム。

植物栽培ノ手付等

迄ル入ニ學小上以年五期兒幼

發育上着眼スベキ諸點

此時代ヨリ物事ニ對スル觀念確カナリ。感情ハ總テニ者シク發展スルヲ見ル。隨ツテ之ニヨリテ意志ヲ左右スルノ誤リニ陥ルコト往々アリ。力盛シトナル。洞察力漸次發揚ス。觀察力亦強クナルヲ見ル。道徳的觀念亦確實ニ發揚ス。注意的力未ダ強キ迄ニハ至ラザルモ幾分此力ヲ保タシメテ注意スルヲ得。幾分規律アル運動ヲナシテ喜ブノ時代。指先ヲ細カニ働カスコトヲ得。總テ諸器官ノ活動盛ニシテ發汗著シクナル呼吸ノ速度ニヨリ烈靜ノ運動ヲ自分ヲ司ドルニ至ル。手足ノ伸縮自在トナル。遊戲又ハ他ノ作業ノ爲メニ胸部壓迫ヲ受クルモ感興ニ驅ラレ知ラズ胸圍ノ發育ヲ妨グルコトアリ。漸ク新陳代謝ノ旺盛ナル時代ナリ。

保育上注意スベキ諸點

物體ノ構造ヲ自分ニテ理解セントスルノ念漸ク發揚シ來ルルガ故ニ玩具等ハ其意ヲ用キルヲ要ス。歴史史談畫等ニ近ツケルコト可ナリ。體育的遊戲ニ近ヅク可キ時代。玩具ハ工夫ヲ加ヘテ體ヲ動かカスガ如キモノヲ選ブベキ要アリ。苦心スレバ必ず成功ノ巧ナルコトヲ自覺セシムルニ適スル時代。體育的姿勢ニ注意スルヲ要ス。深ク衛生ヲ守ラシムルコトノ素養ヲ養成スベシ。持續的思念ヲ養成スベキコト。規律的習慣養成ノ爲メニ母親ノ最も苦心ヲ要スル時代。身體活動即運動又ハ郊外遊戲等ノ獎勵ヲ要スル時代。

代表的玩具ノ二三

木獨樂。心棒ニ注意スベシ。
玉コロガシ。
繪本。
風。
ボール。
家庭遊ノ玩具。
繩飛。
輪遊。
彈力球。
組立人形。
網引。
小禽飼育。

右は特に大津幼稚園の寄稿に係るものなり。研究の着實にして然も深刻なるが上に調査主任者の抱懐せる保育思想が吾人の主張する新幼児教育法と期せずして一致する所あるが如く覺えて痛快を感ず。吾人は此研究の早く完成して斯界に貢獻するの日の一日も早からんことを祈る（湘陽生）

吃りに就いて

是はドクトルクノップ氏の記述を近刊の衛生雜誌にエムケー氏の抄譯されたものであるが幼児教育者に採りて必要なる心得であらうと思ふので此に載せて讀者の注意を乞ふ次第である。殊に昨秋態々吃音矯正に關する質問を寄せられる方は尙更に注意して讀まれんことを切望するものである。

吃りの小兒は甚だ多くわつて、獨逸國のみにても約十萬の學童は、吃りに罹つて居る、それで此吃りの兒童や兩親が、切に之れを治さうと焦慮する所から、非醫者の手に掛けて、治療を計つて居る有様である、今日でも、言語障礙に罹つて居る者を治療するのは、醫者の仕事では無くて、教育家の成すべき事である、即ち教育的治療に委すべきものであると言ふ醫者も無いことは無い、然るにヘルマン、グッツマンの近世學派の言ふ所に依る

と言語障礙に罹つて居る者を治療するのは、此專門教育を受けた醫者に行はしむべき事である、或は、少く共、斯くの如き資格ある醫者の監督の下に於て、吃音矯正法を専攻した教師に委すべきものであると論じて居る、考へて見るに、一體言語障礙といふものは、身體の異常に基くものであつて、彼の官能性の言語障礙も亦同じく身體の變状に伴ふ事が多いといふ事を會得すると、どうして、此吃音の矯正は、醫者の治療に委ねなければならぬといふ要求は、正當であると思はれる、更に茲に、例を引いて來て、説明すると上部氣道の變状殊に鼻呼吸が妨げられた場合杯は此吃りの原因の上から言ふも、又治療の點から言ふも、大層重要な意味のある事柄なのである、それから又肺臟の働きか何かの原因で、妨げられた場合にも發語作用は、大變に、障礙せられるものである、それから便秘といふ事も、吃音を治す上に於て大層妨げになるものであるといふ事も、日常經驗する所であつて、一向耳新らしい事柄でも無い、何故に便秘すると言語の上に障礙を及ぼすかと聞く

のに、それは、便秘すると横隔膜（胸腔と腹腔とを界して居る所の筋肉から出来て居る丈夫な膜で此上に肺と心臓があつて、下には、肝臓、胃杯がある）の運動が妨げられるからである、それから吃りに罹つて居るものに、心理療法を施すと、甚だ有效な事がある。此點に於ては、吃りを治療する醫者は、教育者といふよりも、ムシロ實地心理學者であるかのやうに思はれる、此理を少しく説明して見ると次の如くである、醫者は、其職掌として、考へ方が、客觀的である、即ち患者をヨク觀察する事をする、決して自己の考へる患者に當て嵌めぬ、虚心平氣で患者の狀況を見る、之れに反して、教育者といふものは主觀的に考へるから、己れの考へた事や、感覺した事を其儘兒童に當て嵌めんと勉める、即ち醫者が心理的療法をやつて、效を奏する所から、教育者といふよりも、ムシロ實地心理學者と謂つて良いといふのは、此理由があるからである、決して、醫者が、教師よりもエライ利巧なと言ふ譯ではないのである、以上の譯であるからして、醫者と教師とが共同して

言語障得のある兒童を治療するといふ事には、贊成が出来ぬ、餘談は別として、さて、吃りの豫防を矯正する事を述べるには、先づ順序として、吃りとは一體如何なるものであるのか、又如何にして、發生して来るものであるか、又其治療杯言ふ事柄に就て述べて置く必要がある、そこで此吃りといふものは、醫學の言葉で、而かもクスマウルといふ學者の説を借りて言うて見ると、調節神經の病であると言へる、吃者は、發言する時に、其傍に誰も居らぬ、誰れも見たり聴いたりする者が居らぬと考へて居る時杯には、何の障りも無しに發言する事が出来るのである、然るに、茲に自分分は、思ふやうに自由に發言する事が出来難いといふ事を自覺したり、其觀念が起つたり杯すると直に呼吸筋、發聲筋、調節筋杯に、痙攣が起つて來て、吃るのである、即ち、言語機關の調節作用といふものは、驚くべき複雑なものであるが、此複雑な機關の働きが、神經の中樞から不良の影響を蒙つて、言語を發する働きがウマク行はれぬ所からして、吃るのである、其他身體の色々な機

關にも此吃りに似た現象がある、例へば、不慣れな場所に出ると、面喰らつて、手足の隨意筋が、其調節運動を失ふ事がある、其結果躓ぐいたり、手に持つて居るべき帽子やステツキ杯を落したり杯する事があるのは、此類に屬する、それから泌尿器は、全く健全であるにも拘らず、膀胱に尿が一杯充ちて居るのに、少しく排尿をする事の出来ない事がある、是れは、例へば、他人が見て居るといふ考への起つた時杯に起る事柄である、斯う言ふ類の障礙は、矢張り一種の吃りと云ふ事が出来るのである。

吃りの原因を述べて見ると、吃りに罹る人は、神経病の素因を以て居る人に多い、又急性傳染病が動機となつて、吃りを發する事も決して稀では無い、其傳染病の中で、殊に擧ぐべきものは「ヂフテリア」麻疹、猩紅熱、「チフス」、流行性感胃等であつて、其外に外傷も此れに屬する、それから、吃りの眞似をして居ると、遂には、自身も吃りになつて了ふ事がある、此れを精神傳染と唱へて居る、書物を調べて見ると、此種のもものは、珍

しくは無いが、予の實驗した一人の吃者は、始めて芝居に行つた日から、吃り始めた、その他遺傳性吃りと言はれて居るものは、多くは、遺傳素質のある上に眞似をする所から來たものである、此種のもものは、治療を施しても、思ふ様に成績が擧げぬ、近頃予は、或る園丁の娘の子が吃りになつたのを治療した事があるが、效能が顯はれて、全く治つて了つた、然るに、二三ヶ月の後に、又々再發して、吃り始めた、そこで、予は、他の吃る小兒と一緒に遊んで居たのでは無いかと聞いた所が、母の答へて言ふには、父が少しばかり吃りますと云うた、そこで、又此子に治療を施して、比較的早く治して了つた、然るに、二三ヶ月経つたら、又々吃り始めた、それで、今度は、父親が其子を予の所に連れて來た、で其父親の言葉を聞いて、予は、直に、此父は、非常に躁急の性質の人で吃りである事を知り抜いた、父親は、予の療法に至極不満足で、行き届かぬから、此のやうに再發するのであると小言を言うた、そこで、予は、此父に向つて言ふには、手本を示して居る間は、

此子の吃りは、永久に治癒する事は無いと言ひ聞かせた、そうした所が、件の父は、甚しく吃りながら、何を言ふのかと訪問したが、其後絶へて予の所を訪問しなくなつた。

吃りの多くは、言語の發達する時期に起るもので、約三歳乃至五歳の時に發して來る、併し此の年齢の小兒は通常少しは吃るものである、即ち生理的の吃りと謂うて差支は無い、兒童の精神發育と、言葉を理解する精神力と、それから自己の考へた事を言葉に顯はさうとする能力が、複雑な發語運動を營む身體能力に先だつた場合には、子供の言葉は茲に吃るのである、グーツマンが言つた如く、子供は、多少に拘らず、烈しく吃るものである、もしも子供が、甚しき神經病の素因を以て居らぬ時、且つ其周圍が靜かであつて、神經衰弱症の人が居ない時には、イクラか吃りは容易に矯正せられるものである、母親や教師杯が、ひどく吃りの小兒に同情したり、憐れむたり、或は、餘りに烈しく嚴格の態度を採つたり杯すると、吃りは、一向に治らぬものである。

それから六歳と八歳の間頃のの小兒に、吃りを發する事が中々に多い、此場合には、學校授業を受けたが爲めに、精神に強い感動を蒙つたのと又第二生齒期に受ける身體的影響との爲めに、吃りを發するのである。

それから多くの統計に徴するに、十四歳頃になつて吃りが多くなるといふのも事實である、丁度發情期の頃である、一體に吃りの兒童の三分の一は、就學の時に吃りに罹つたもので、三分の二は、吃りの儘で學校を卒業したもので、此れは、就學して居る間に吃りに罹つたものである、成年期に達してから吃りに罹るといふ事は、大抵無い事で、若しあればそれは例外である。

そこで吃りの療法には古來種々の方法があるが、一番良いのは、グーツマンといふ人の方法である、是れはドーするのといふに、呼吸、發聲、調節の常規運動は如何なるものであるかを例を以て兒童に示すのである、是れは、勿論兒童の精神發達の程度に應じてやるのである、そうして常規運動を教へながら、發語運動の妨げられる狀況を示し

此障碍を矯正する方法を教へるのである、此時兒童の意志の力と叡智と之れから醫者の熱心と質地心理學者たる能力とが甚だ大切なものである、吃りを治す積りで暗示を試みた人も多くある、此方法も危険は無いが、併し永く此方法を續けても、永久の効果は中々に擧らぬものである。

吃りの原因は、上に述べた通りである、是れは、豫防を講ずる上に甚だ大切で、又原因が分つて居れば豫防法は、自ら分つて來る理屈である。

兒童の神經病的素因は、哺乳期或は出産前から出來る限り之れを除く事を勉めなくてはならぬ、併し此れは甚だむづかしい事である、父親が憂鬱症であつたり、母が「ヒステリー」であつたりする時は、小兒は、其發育の上にななる感化を蒙るものである、吃りの場合にも亦左様である、此時両親が小兒と分れて他の所に住して居れば、小兒の吃りを治すに大層都合が宜しいけれども、此事を両親に納得させる事は容易な事では無い、それで神經病の素因を以て居る小兒で、而かも吃りを始めかけて居るものを精神の健全な人ばかり居る所

に移すのは、吃りの治療上唯一の方法であつて、同時に治療する上に於て安全な道である、もし此れも行はれぬとならば、醫者は、心理的、理學的、藥物的の諸療法を試みるのである。

吃りの初期には、醫者たるものは、宜しく兒童の身體の狀況に眼を向けなければならぬ、例へば、呼吸運動を妨げるやうな事柄は、一切除く事を勉める、是れには、先づ、胸廓の疾病（佝僂病、肋骨、脊髓カリエス）、肺炎、肋膜炎の残りを除く事をやる、それから、腸の中に瓦斯が溜つたり、或は、便秘して居るならば、是れを除く事をするその外腹部の病で、横隔膜の運動を妨げるやうなものをも、除く事をする、又小兒には稀であるけれども、氣管、喉頭の病の外に、咽頭や鼻の異状は、甚だ屢々あるものであるから、注意しなければならぬ、又咽頭口蓋の線が腫れ上つて居る事も、吃りの原因上中々緊要なものであるから、此腫れた腺を切り取るといふ事は、吃りの豫防上甚だ大切な事である、それから又鼻呼吸を妨げるもの、例へば、鼻中隔の曲つて居るのや異物や或は鼻茸杯

を去る事をするのも豫防上同じく大切である、又齒の生え方の悪いのも注意すべきものである、幼稚な小兒や生長した小兒に見る不道德の悪習慣も矯正しなければならぬ、それから急性傳染病の恢復期も注意しなければならぬ。

吃りの眞似をすると、小兒は、容易に吃るやうになるものであるから、媪母、子守り等のもので吃るものがあつたら、小兒の周圍から、他に去らせる事をしなければならぬ、是れは、羅馬のクインチリアンも言つた事である、又吃りの兒童は、それが全治する迄は、學校に出さぬ方がよい、吃りに限らず、舞蹈病に罹つて居る小兒も、登校を禁じた方がよい、他の生徒が眞似をして、その爲めに、本病に罹る事であるからである、或人は、吃りの小兒を集めて、特殊の學級を編成して、教育した方が宜しいといふ人もある、此場合には、吃りの矯正を知つて居る教師が教育の任に當るのがよい、併しながら、實際是れが出来るかどうか疑はしく思はれる、予の考へる所では、師範學校なり、大學なりで、教師に、言語の生理と其療法と

を教へて置いたなら、授業の時に吃りを矯正するに都合が良からうと思はれる。

吃りは、時としては、發情期に入つてから、或は、發情期以後になると、自然に治る事がある、併し是れは稀である。

●英國の家庭 一家仁讓なれば一國仁讓に興ると聖人の遺書にもある如く、一國の富強は必ず一家に求めざるべからず、英國に於ける或貴族の家庭談といふを聞くに、其家族は主人、夫人、令息令嬢並に數名の婢僕とであるが、實に和氣霽々たるものにて誠に羨ましく感ぜられた、一日間の模様をいつて見れば、先づ朝起ると一同食堂に集り、モウ湧くが如き談笑である、高貴の家庭にも拘らず、食卓に食物は一切自分で運び取る事になつて居る、こゝが大に日本なぞと違ふ、日本であれば召使をコキ使ふ處だ、朝食がすむと、各自の室に引取つて令息でも令嬢でも一人としてノラクラ遊ぶ様な事はなく、皆それれ、必ず一日の用務に取り掛るのである。晚餐の時には必ず附近の住居人數名を招き且つ談じ且食ふ、此談話が意外の利益を興へるものだ、常に一家の内が楽しいのは、英國が富強になつた基であると思ふ、一體日本ならば殊更に主人でも夫人でも、四角張つて六ヶ敷い顔をするものを、英國では温顔微笑の裡に生活して居る。

ミシン裁縫に就いて

シンガポールミシン裁縫女學院長 秦利舞子

ミシン器械を使用する利益

衣服の裁縫上、シンガポールミシンを使用するときは時間及び努力の點に於て非常な經濟になります、例へば襯衣の如きは、ミシンで縫へば、一日十五六枚も仕上げの程になりますから、其速力、到底手縫とは同日の論でございませぬ、又努力に就て見るも、ミシンの使用法と布帛の持方とを一通り心得さへすれば、其餘は器械が働きますから、自然と眞直に縫ひ得るやうになり、多くの努力は要しませぬ。如何なる家庭にても襯衣を着、袴下を穿く人は必ずあるもので、子供用の物より大人用の物に至るまで、一々之を購求するとなれば、大變費用が嵩まりますが、之を自宅で調へると、地質等の選擇自在にして、各自の肢體に能く適ふの外、努力だけが廉く仕上がるのです。又洋服が古くなつた時、裏返しを洋服屋に頼むと、歡んで應

ずる所がありませぬ、それで、自然打棄つて置くか、古着屋へ捨賣にするより外、道がありませんが、ミシン裁縫の心得れば、自宅で裏返しが出るのみならず、大人の服を小供の服に縫ひ直すことも出来、家庭經濟上益する所多きは言を俟たぬ次第であります。

職業としてのミシン裁縫

前陳の如く、ミシン裁縫は、器械自身が働くものなれば、努力と時間との節約大なるものであります。更に所得の點に就いて見るも、少し勉強すれば、一ヶ月十五圓位の収入は容易であります、故に女子の技藝的職業として、之を以て世に立つには誠に適當と思はれます。現に我々の卒業生中には、呉服店等の仕立物を引受け、女の細腕にて一家族の生計を支へて居るものがあり、又自身唐物店を開いて、特別の誂物は勿論、一方には裁縫店の仕入物を請合つて立派に生活して居るものもありませぬ。彼の襯衣屋のお鐵さん杯は、襯衣の裁縫のみを内職にして、優に四人の家族を養つて居ります。又ミシン裁縫を職業とするものの中には

襦袢なら襦袢、小兒服なら小兒服、と專賣的に營業するものと、何品でも引受けて營業するものと二種あります。前者は後者よりも遙に收益が多いやうです。獨り裁縫業者のみに限らず、總ての職業は、皆其掬を一にするもの、如く、彼方も此方も喰ひ掛けるよりは、一方に専心努力する方が事業の進歩が善いやうに思はれます。我が校にては、速に収入を得たいといふ希望者のため、特に營業部といふものを設けて居りますが、兎も角も營業部と稱する以上は、製作品の販賣上、世間一般の營業者と競争して行かなければなりません。若し他店では廉い、學校では高いといふ様な評判を受けては、競争に打勝つことが困難です。依て此等の業務に従事する人々に對しては、就業時間なども嚴しく履行して居ります。一體女子は虚榮心に富める結果として面會者でもあると、冗談の爲に時間を費す癖あり、之がため自然収入を減するといふ弊害が起ります。故に苟くも職業として従事する已上は、十分の覺悟を要すべくその覺悟如何に因りて所得上に大差を生ずることに注

意せねばなりません。又ミシン刺繡は米國婦人の發明に係るものでありますが、シンガーミシン會社の技手長尾氏が、公務の傍之を研鑽して其濫與を極められました。我が校では一週二回づゝ之を教へて居りますが、世等の技術も漸次練磨の功を積みましたならば、將來は適好なる一種の職業となるであらうと信じます。

▲ミシン裁縫とその普及法

世間には、ミシン裁縫は、單に洋服類に限り、和服には應用が出来ぬものと思ふ人も多いやうですが、之を和服に應用することは決して難事でありません。否、大變便利で、現に應用して居る人は幾干もあります。就中子女の多き家庭に於て、木綿物に使用するときには、誠に徳用です。又絹物も決して縫はれぬことはありません。ミシンで縫へば孔が穿くとか、解くに困るとか、疑ふ人もありませんが、絹物には絹物相當の針を使へば、些も如態配慮なく、又解くに困る杯といふ事は、調子の取方と絲の扱ひ方とを知らぬから起るのです。其方法だに宜しきを得ば、寧ろ絹物は、木綿物よ

り適當して居るのです、故に此等の効益が世人に知悉せらるゝ曉に至らば、ミシン裁縫か必ず一般家庭に普及するに相違ありません。但だミシン器械は廉く買はれず、殊にシンガミシン器械は普通のミシン器械よりも高價であります。是は器械が非常に精巧で且つ輕く、附屬品も多く、耐久力も非常に長くして、一代も二代も使用し得る特徴あるためでありますが、唯遺憾なるは、此等の器械が多くは輸入品にて、和製には精巧なるものなく、中流以下の家庭に備へしむるに困難なる事であります。

貧困者は無論西洋にもありませんが、彼地の貧困者は、大抵共同貸家の一室を借りて住んで居りますから、同一家屋の中に住んで居る人々は、共同で一臺のミシン器械を買ひ、毎日順番に使用する様になつて居ります。故に日本に於ても、之を中流以下の家庭に普及せしむるには、此輪用法に頼るより外、策がありません。然るに日本では、西洋の如き共同生活の風未だ發達せず、彼地の方法を其儘採用すること難ければ、此點は餘程攻究を要

する次第であります。併し社會生活の進歩するに従ひ、我邦に於ても、衣服製作上、器械裁縫の漸次手縫に代はるべきことは瞭かにて、他の器械的技藝が皆改良されて行くのに、獨り裁縫のみ舊式を墨守することも出来ずまい。一例を擧ぐれば、米國の如きも、最初は衣服は手縫でありましたが、人文發達し、時間を重んずる思想の進歩するに伴れて漸次廢れました。日本人は未だ外國人ほどの時間を尊ぶ觀念強からざるより、手縫で間に合せて居るけれども、將來時間の貴重なることを悟るに至らば、自然一般に普及すべきことは、疑ひを容れぬ所であります。

▲和服改良に關する意見

日本服は、頗る不完全、不體裁なる服装なれば之が改良は早晚必ず起つて來る所の問題と信じます日本人は、古昔は皆裳を着け、帽子を冠つて居りました。が、中古武家時代に及んで大に簡略になつたのであります。兎に角和服を改良するには、先づ裾の方より着手するが順序なるべく、其美は專ら袖があるためなれば、袴には私共の考案に係る

和服用スカートを應用して、袖は成るべく其儘保存して置きたいのです。これは勿論和朋改良の初歩に過ぎませぬ。

或人は、日本人の服装は是非改良しなければならぬ。第一長い袖は不必要なものである、若し全国民が袖に用ゐる布帛を節約したならば、經濟上非常な利益であらうといふ説を唱へて居りますが、是は一體美といふものを度外視したる論で、若し日本服より袖を除けば、とても見られた物でありませぬ、就中女性には美を重んじますから、此説は實行さるゝ事が困難です、其證據には、彼の所謂改良服の如き、少數の子女に使用せらるゝ外、毫も流行せぬ所を見ても解ります。

日本人の衣服を改良するならば、先づ腰以下を切捨てた方が宜からうと私は思ひます、依て種々工夫を凝したる結果、袴を改良して和服用スカートを出し、遂に實用新案の登録を得ました。今日女學生は大抵袴を着けて居りますが、裾が開いて居らぬため、行燈のやうな形状を爲し、又ズル／＼降つて、袴下の紐が見えて、随分見苦しいのです

故に洋服用スカートを和服に應用したら便利かと思つて着手しました、處が西洋人は、コルセットを當て、腰圍を締めて居りますから都合が宜いが日本人は中々さうは參りません、或は腹巻をする、或は種々な着物を重ねる、又季節に依て服装が異ふ、その結果、夏季用、冬季用といふ風に、幾種類のスカーツを備へなければならぬといふ不便が起ります、故に之を應用する己上は、季節の如何を問はず、何時でも使用し得るものでなければ効力がないので、苦心研究の末、和服用スカートを案出したのであります。此スカートは腹部の周圍を自在に伸縮し得べく、衣服を重ねた時でも、又薄着の時でも共通するし、見つけ柄が好くて非常に格好が良く、決して袴の如くズルズル降る累もありませぬ、それで近頃は大方擴つて參りました。

和服を改良するならば、寧ろ洋服に變へた方が宜からうといふ論者もありませんが、是には私も至極同感であります、洋服にせよ、和服にせよ、今日の服装に違ふ迄には、幾多の變遷と改良とを経

たるものなれば、和服は和服として其發達の頂點に達し、洋服は又洋服として其發達の頂點に達したのであります、従つて之を折衷したる改良服は、其何れよりも劣ること勿論なれば、和服兩式中孰れか一方を擇んで用ゐる事が必要です、然るに現今の和服は種々の點に於て洋服より劣り居れば、早晩洋服にする時代が來るのであります、服装を洋服に改良しようといふには、先づ住家の改良から着手しなければなりません、此住家の改良問題が快く解決せられる後、始めて洋服が一般に使用される、事でありませう。

▲ミシン裁縫と婦人病との關係

女子がミシン裁縫に従事すると、住々婦人病に罹る虞あるやうに思はれ、練習を希望する女子の間にも、之を恐れて修練を避くる傾向があります、是は全然謬想です。元來日本婦人の下着は不完全を極め、椅子にでも腰掛けると直ぐ風が下から入るやうな製作法なれば、椅子を使用する際には、豫め之に對する準備を爲すことが肝要です。西洋諸國の家庭にては、一般にミシン器械を使用し

居るに拘らず、其爲に婦人病が多いなど、いふ事を聞きません。是が果して事實ならば、所謂婦人病は、器械裁縫の結果として起るものに非ずして衣服の不完全、其他衛生上の不注意に基くのではあるまいかと思はれます。以上、ミシン裁縫に就いて、平素考へて居ります、家事經濟上の關係やら、女子職業上の關係やら、其他のことを、概略ながら御話し致した次第であります。

占相

なにかし

人相、手相、筆相、などにて色々の占ひ事あるは人のよく知れる所なるが左に述ぶる諸相にも幾分の占ひ得る所あるにや讀者の御感に迄記して見ん

歩き方の相

○貴上の人自然と其體重くして脚軽く貧賤なるものは身軽くして脚重し、故に貴人は歩むに身

動かすして脚先へ歩む、貧賤の者は身軽く脚重

きが故に身先へ歩み足は跡に行く

○行くに跟地に落ちつかざる如きは横死するか住所に勞すこんな癖のある人は早速矯正いたしま

せんと大變で御座います、

○行くに頭を傾けまた歩むに身を振るやうなるは終に身衰ふ、

○行くに足の横に開くが如きは親の業を嫌ひ他國に流浪す、

○歩むに何と無く躁がしく又足音高きは大いに敗破す、

○龍行虎歩は大に發達功名を顯はす行くこと穩かに自然と勢ありて左右をかへり見ざるを言ふ、

○行くに鳩の啄はむが如きは發達なし短壽なり女は夫に縁無し、

○歩むに眞一文字の如く行くは急性なり俗に内蔵といふなり宜しからず親の家を破る、女は子無し。

○行くに足屈むか倒るゝやうなるは子孫の住所に辛苦す、

○蛇行は大に凶し人を害ふ、蛇行とは腰に力無く歩むに身の曲るをいふ、

○座して山の如く凝然として動かざるは座の徳なり故に座して膝を動かし用なきに度々座を動くものは一生名をなす事なしまた故郷を離るゝか祖業を破る何れも心の動きやすき人なり

○座して進退正節に言語應對穩なるは心術正し

○座して其形相泰然として山の如く動かざるは大貴の相なり

○臥 相

○貴賤男女に限らず臥して氣息耳より息するが如きは長壽也。

○臥して其様正しく息の外へ聞えざるは大に發達し高名をなす。

○臥して寢苦しき様なるは常に辛勞絶えず短壽なり、

○座臥共に涎を流すものは子孫に難あり、

○小兒の齒ぎしりは早く親に別る大人は妻變る、

○兄弟不和となる、

○仰向きに寝て手足を伸すものは常に病あるか短

壽なり

○臥して屈むが如くまた川流の如きは親の家を潰す、

○臥して物言ふやうなるは孤獨なり寢言を多く言ふは人の妬を受けるか妻變る、

○寢入つて物に驚きうめくが如きは妻と壽に障る

○眼を開きて寢入るものは横死を擬し口を開きて寢入るものは短命なり俯向きに臥るものは病身なり

○俗に枕寢りと言ふは立身早し躰は無病なれども賤し、

飲食の相

○飲食するに瘦せたる人は遅さが宜しく肥えたるは早さが吉し、

○物食ふに呑み込む時頭を動かすは短壽又は祿を失ふ、

○物食ふに鼠の如きは貪欲なり鳥の啄む如きは餓死す、

○男女ともに食は嗜むこと緩かなるは貴相なり冷食を好むものは下賤なり、

○咽を鳴らして食ふものは性急なり其の身に浮沈多し。

○口を開いて物食ふものは食に盡さる又口より漏こぼすは短壽。

聲 相

○俗に金切聲といふは祖業を破る女は夫の權を奪ふ子無し。

○女の聲何となく耳に徹するが如きは夫を尅す、其身不正なり。

○男女共に聲の發して締り無きは故郷を去るか常に散財す。

○女の男に似たる聲するは再三縁變る又色情にて身を洗ひ

○男に女の如き聲交るは不仕合。

○聲爽亮にして言語静止なるは皆發達榮昌を主る

○音聲濁りて爽かならざるものは皆發達なく高名ならず。

○官祿高き人はたとへ當時困窮なりとも言語穩かにて其聲丹田より出るものなり。また卑賤のものには金錢家財不足なくとも其聲必ず自然に濁る

か又舌編より出づるといふ。
如何んな事を根拠として右の様な事を申したのか
解りませんがいつれ善くないといふ事は學ばず己
に身につける悪しき癖は一日も早くなほさなければ
ばなりません。殊に物摸擬たがる幼児等をお取り
扱ひにならるゝ方々は少しの癖もかなほしになり
ませんと子供等は何等の間にか同形の癖のつくも
の右おもしろいと思ひましたから一寸受け賣りい
たします。

幼児笑話

五つと五才 赤坂 貞子
お向ふの八重子ちゃん 今年取つて五つの可愛盛り或日遊びに來
られたので「八重ちゃんあなたのおいくつ？」と聞きましたら、圓い
目を見張つて「あたし五つと五才ま」

おんぶして淺草へ 相摸 杉村
「長ちゃん大きくなつたらだれをお嫁さんにするの」と五つの真さ
んに聞きましたら
僕春姉さんをお嫁に貰ふの」といひますので「それぢやお嫁さん
にしてどうするの」と又聞きましたら
「僕おんぶして淺草へ行くの」

岡山 吉岡 絹子
五つなる弟の清が「背中がかいから母さん早く掻いて」と云つて
母にかいて貰ひながら母さんもつと上よもつと下よ」と云つて居
ましたのがやがてじれたそうに「母さんには僕の掻いゝ處分らない
のかな」

短歌

つゝましげに物言ふ人の袖ふきて紅梅かほる朝の露かな
ほのやかに端色なせるしのめやいろくさき初鐘の聲
鐘の音は花の匂ひをそとゆきて若草山にゆふかすむかな
雪の日や眼をやむ人をいたはりて共にきいづる鶯の聲
春若きみどりは雪の白妙にのときわ目だつ 朝倉 美知
戀やれし夕べと見し白梅の光りのまいに冷たく匂はむ
なき罪をまゝ母に得て忍び音に泣くにも似たり 小野 春香
琴の首に匂ひたつよう梅の欄あや羽うちふる 吼雀 鳩かな
臘を涙とふたりそゝる行く花の下かせ身に 瀧 渡る 季
波の上を白魚をとる琴の手に銀燭ゆるゝ春風の宵 金 陵 子
薄ぐらぞ花の下かけ笛とりて吹くとしも無くさまよひし夜や
友をすてはらからを捨てなまじいに世を咒ふべき都ぶり哉
朧月木かげに人のかけふたつきえたる跡を花吹雪する 櫻井 彌生
宵におへる稚兒のさしづにたとり行く世の道狭き我さだめ哉
世はなへて毒霧せまる立山のわめき聞ゆる地獄谷かも ちとせ 女
臆たけし尼君そゝる經とちてうなだれ勝ちに驚をさく
柔かき若草の野をさまよへるふりわけ髪にふく鶯の風 * * * * *
記 雲
亡き人の宿世かなしむ春の日を
鐘とよみ鳴る花くもり哉
鳳凰堂朝日うらゝすき彫りの
天女に匂ふうこん櫻や
(投稿隨意) 伊勢白子局區内 眞宮 宛

お伽笑話

藁と炭と蠶豆

と よ 子



或處に一軒の百姓家がありました。此家のお神さんが、或時蠶豆をゆでやうと思つて先づ爐の中へ藁を一握入れてマツチで火を付けてそれから其上へ炭の塊をガラ／＼と五つ六つ入れて、そして此火の起る中にと思つてお神さんは流しの所へ行つてそら豆を桶に入れて洗つて居りました。其中に先に入れた炭の中に大層はねる炭があつてボンと云ふ音と一所に藁が一本と炭が一つ爐の外にはね飛ばされてユロ／＼と轉がつて流しの側の土間へ落ちました。炭はしたゝかに腰を打ち藁は長い足を痛めて一所に顔をしかめて

「アイタ……、誰れだへ人をこんな所へ抛り出して、ひどいことをするぢやな

いかと二人で同じことを云つて居ました。頓がて起き上つた藁は炭が自分の側に同じ様にしかめ顔して寝て居るのを見て

「オイ炭さん、君はひどいね、人をこんな所へはね飛して！」と云ひますと炭は大層憤つて

「僕ではないよ、僕の隣りに居た堅炭君がはねたのだよ。僕だつて飛んだ災難ぢやないか」と云ひますので藁も機嫌を直して

「ソウカ、それぢや仕方がない、喧嘩したつて仕方がないから、マア少し休みませう」。

と云つて話して居る中にお神さんは豆を洗つてお鍋の中へザアツとあげやうとする。一番後から落ちて行つた豆が一つお鍋の中へ入らないでお鍋の縁へ打つかつてボンと飛んで板の間に落ちそれからユロくと轉がつて土間へ落ちました。たが其處が丁度藁と炭の居る所でした。元氣な藁は聲を掛けて

「ヤア、蠶豆君、君も落ちて來たね、僕等も先きから此處へ落ちて來てたのだ

よ、マア話(はな)し玉(たま)へ」と云(い)ひますと

豆(まめ)「ア痛(いた)、タ……、何(ど)うもコレハひどい目(め)に遇(あ)つた。ア、痛(いた)いく、鍋(なべ)の縁(よこ)で頭(あたま)を打(う)つて板(いた)の間(ま)で腰(こし)を打(う)つておまけに土間(どま)へ落(おち)ちて肩(かた)をいやと云(い)ふ程(ほど)打(う)つてしまつた。ア、痛(いた)いくとしかめ顔(がほ)をして居(ゐ)ました。」

頓(や)がて暫(しばら)くして藁(わら)と炭(すす)と蠶豆(こらまめ)の三人(さんにん)は

「何(な)うだ諸君(しよくん)！今日(けふ)は天(てん)氣(き)もよし風(かぜ)も暖(あたた)かではあるし、それに僕等(ぼくら)はもう別段(べつだん)用(もち)もないだらうから一つ是(これ)から散步(さんぽ)に出掛(で)かけやうではないか」と云(い)ふ藁(わら)の云(い)ひ出しに賛成(さんせい)して共(とも)々に先(ま)づ野原(のほら)へと出掛(で)かけて参(まゐ)りました。

何(なに)せよ時(とき)は春(はる)の初(はじ)めて四(よ)方(ほう)の山(やま)が春(はる)めいで來(き)て鶯(うぐいす)があちこちの梅(うめ)の枝(えだ)でホーホケキヨくと鳴(な)いて居(ゐ)りますし蝶(てふ)々はきれいな羽根(はね)をひらくと動(うご)かしてそここの蓮華(れんげ)の花(はな)を飛(と)び回(ま)はつて居(ゐ)りまして何(なに)とも云(い)へぬよい心持(こころもち)になりました。藁(わら)は例(れい)の元氣(げんき)な聲(こゑ)を細(ほそ)い胴腹(どうはら)からしぼり出(だ)して

ひばりは唱ひ蝶々はかどる

春の野山に遊ぶはうれし

そこにはよめなこゝにはつくし

たんぼ、堇蓮華花

花をばとりて草をば摘みて

うちの母さんにお土産にさせう

と歌ひました。春の野山は一層面白いものになりました。三人はふぎけながらだんくと歩いて参りますと、ある小さな川の所へ来ました。處が此川には橋がありません。大人は皆ピョンピョンと飛び越して行つてしまひますが、此三人には何うしても飛び越す譯には行きません。三人は集まつて皆で

「何うしよう。モウ歸らうか」と云ひますと例の藁は

「君等そんな意氣地のないことを云ふのはよし給へ。僕が茲で橋になるからね。君等は僕等の脊中を渡り給へ」と云ひながら藁は勢を伸ばして向ふの縁へ手を掛けて橋となりました。残に残つた炭と豆とは何方も負けず劣らずの憶病症

なのでお互に

「君、先きへマア渡り給へ、イヤ君から渡り給へ」と云つて居ました。餘り何時迄も果てしがないので短氣ものゝ藁は又怒り出して

「何だつて二人でぐづく云つて居るんだ。そんなに何時迄もぐづくして居ては僕がくたびれるではないか。早く渡つて呉れ給へよ」と云のに驚いて先づ炭が渡ることにになりました。が何がさて炭はおつかなびつくりで、足を踏みしめながら「オイシヨ、ドッコイシヨ」とだん／＼渡つて来て今や真中頃と思ふ頃に炭はふと川の中を見ますと今しも田圃から流れ出した水は渦を巻いて勢ひ鋭く流れ行く其水の上に何處から落ちたか一疋の蝶々が水の渦に巻かれながら目を廻して溺れ流れて行くのがちらりと炭の眼に入りました。之を見た炭は「ア危険!」と思うと足がフラ／＼と戦へて立つて居られないので我知らず「アツ」と云ひながら藁の胴腹へかぢり付きました。かぢり付かれた藁は苦しいのと重いのに堪え切れないうで是も「ア、、、」と云ひながら二人一所ドブ

と川の中へ落ちてブクブク水に卷かれて下手の方へ流されて行ききました。之を見て居た蠶豆は驚いたの驚かないのつて、大變に驚いて「ア、大變だア早く……」と云つたかと思ふと是は又餘り大きな口を開けて叫んだので口が横へ裂けて氣絶して倒れて仕舞ひました。

暫くして蠶豆は眼を覺して見ると今しも學校から歸りがけの一人の女の子が荷物の中から裁縫のお道具を出して蠶豆の破けた口を縫つて呉れて居る所でした。女の子は頓がて縫ひ上げてから丁寧に蠶豆をいたはりながら側の畑の中へ埋めて家へ歸つて行きました。斯様にして藁と炭とは死んでしまいましたが蠶豆はお陰で助かつて今も盛んに畑に生つて居ります。併し女の子が縫つて呉れる時に黒い糸で縫つて呉れましたので蠶豆には今も口の處に黒い跡が残つて居るのだそうです。

めでたし〜〜〜

第二十九回産科

婦人科學講習

●科目

産科手術學及婦人科診斷學

●時日

四十二年三月二日より五月六日まで
毎週火木土午後六時より八時まで

●資格

醫術開業免狀所有者

右廣告す

規則書を望まると人は郵税二錢送らるべし

東京市日本橋區濱町三丁目七番地
産科
婦人科
楠田病院教室

フレールベル會編



幼稚園遊戯

定價金四十錢
會員特價參拾錢
郵税四錢

右は久しく絶版致し居候處今回再版出來
致し候に付貴需に應じ申す可く候

中村五六和田實合著



幼児教育法

定價金壹圓
會員
一割引

右殘本小數と相成候に付御用の方は至急
御注文願上候

各女學校御用

美術造花材料一式

半製品及鋸打拔類

摘細工材料

絹縮緬及金銀モル寫真臺紙柱掛

瓶細工材料

刺繡用絲及針

東京市本郷區眞砂町十五

卸小賣 百花堂 木村喜兵衛

地方御注文ハ代金引替ニテ郵送ス營業目錄御報次第郵送ス

明治四十二年三月五日印刷

編輯者 東京市小石川區竹早町七二

發行所 東京市神田區錦町三丁目熊田印刷所内

女子高等師範學校内